

学校名	只見町立朝日小学校
授業者	小堀 麻衣子

## 1. 単元計画

### 1-1. 単元名

只見の水を守れ！

### 1-2. 学年

第4学年

### 1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合的な学習の時間

### 1-4. 単元の概要

本単元は、只見の川の特異性について知ることで、その貴重さに気付き、将来にわたって保全していくための意識や実際の行動に対して自分の考えをもっていくことがねらいである。身近な川である黒谷川を手がかりに、他の川との比較を通して気付いたことをまとめるとともに、「地球温暖化」というキーワードと美しい川・水の保全が深いところで結びついていることに気付かせることで、ねらいを達成させることができる。地球温暖化と只見の環境保全という視点が結びつくような具体例を、自分たちの学習を通して実感することができる貴重な単元である。

### 1-5. 単元設定の理由・ねらい

#### ○ 単元のねらい

- ・ 只見の川・水を守ることと地球温暖化の解決が相互に繋がっていくことに気付くことができる。
- ・ 豊かな只見の水を守るために、現在・将来に必要なことを調べ、それをもとに自分たちにできる身近で日常的な行動を話し合っ実践しようとするすることができる。

#### ○ 単元設定の理由

##### (1) 児童の実態（男子4名、女子3名、計7名）

「只見の水を探れ 守れ」をテーマに学習を進めている。昨年度は只見の豊かな自然を、様々な体験を通して実感してきた。森を中心に学習をした中で、たくさんの生物がいたことから、今年度は水と生命の繋がりについて調べ学習を始めた。

全員が只見の自然について関心が高く、実際に体験したり調べたりして実感することに意欲的である。積極的に取り組もうとする一方で、感じたことを言語化したり表現したりすることには苦手意識がある。調べ学習を通してまとめたことを様々な方法で表現できるように機会を設けていくことで、自分が考えていることを適切・効果的な方法で表現できるようにスキルを高めていきたい。

##### (2) 指導観

本単元では、実感を伴った理解を促すために、なるべく自分たちでデータ収集や分析を行わせていく。様々なデータが存在する中で、自分たちが伝えたい内容に合った最良のデータを選択するスキルも経験を通して身に付けさせていきたい。温暖化というグローバルな視点からスタートし、最終的には自分自

身の生活や日常的な行動に意識を向けさせるために、スモールステップでまとめを行っていく。そして、地球規模の問題も自分の力で変えることができる可能性があることを認識させていきたい。これによって、将来にわたって只見の環境を守ろうとする意欲を高め、継続させることができると考える。

本時は、本単元の導入部に当たる。前時まで、只見の川のうつくしさとその理由についてまとめている。こうした貴重な自然は極めて珍しいものであるが、子供たちにとっては生まれたときから存在しているものであり、改めて「守る・保全する」という考えには結びつかない部分もある。様々な環境問題に対する危機感と、人ごとではないという視点をもたせ、今後の調べ学習に繋がる自分自身の問いや課題を発見させていきたい。

#### 1-6. 育みたい資質や能力、態度

- 地球温暖化について様々な情報を収集・取捨選択する。〈問題を発見する力・解決する力〉
- 収集した情報を身近な地域の現状と照らし合わせて考える。〈論理的・批判的に考える力〉
- 自分が感じた疑問や課題と思われる点について、他者と共有し、解決に向けた取組みを話し合いの中で考える。〈話し合いを通じて自分の考えを高める力（コラボレーション力）〉

#### 1-7. 単元の展開（全27時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
1 2	○ 地球温暖化について知る。(2) ・温暖化について調べたいことを課題として決める。(本時 1 / 2)	地球温暖化に由来する諸問題に関心を持ち、今後調べていきたい課題をもつことができる。  〈問題を発見する力〉
3 ~ 5	○ 地球温暖化を中心に、設定した課題を調べる。 ・図書やインターネットを活用して調査を進める。(2) ・調べたことを共有する。(1)	自分の課題について、自分が扱える内容の範囲で情報を収集したり情報を取捨選択したりすることができる。〈ICTスキルや情報リテラシーの向上〉
6	○ 温暖化を防ぐという視点で課題を再設定する。(1)	温暖化の弊害を理解して、それが只見にも影響を与えていくことに気付き、それを防ぐための方法について考えようとする事ができる。 〈振り返りから次に学ぶべきことを探す適応的学習能力〉
7 ~ 10	○ 温暖化の原因とその解決策について、設定した課題に基づいて調べる。(4)	自分の課題について、自分が扱える内容の範囲で情報を収集したり情報を取捨選択したりすることができる。  〈ICTスキルや情報リテラシーの向上〉

11 ～ 15	○ 調べたことを任意の方法でまとめ発表する。(5)	<p>温暖化を防ぐためにできることを、周囲の人々へ伝える方法を考え、伝えたい内容について十分に表現することができる。</p> <p>〈プレゼンテーション力〉</p>
16	○ 「水を守る」と「温暖化を防ぐ」ことの共通点を考える。(1)	<p>水がきれいであるために必要なことと、温暖化を防ぐために行わなければならないことに「森林を守る」という共通点があることに気づき、身近な只見の水を守ることで地球環境を救うことに繋がると考えることができる。〈イノベーション力〉</p>
17 ～ 21	○ 只見の美しい水を守るために自分ができる日常的な行動を考える。(5) ・治水・防災の必要性について学び、森林を守るという視点との矛盾について話し合いをしながら、アイデアを出す。	<p>森林を守るという観点と治水・防災という相反する考えの必要性を自分なりに統合し、どこまで自然に手を入れることができるかと考えるかをまとめることができる。</p> <p>〈コミュニケーション力・コラボレーション力〉</p>
22 ～ 28	○ 自分たちが考えた只見の水を守る行動を、ICTを活用して多くの人へ伝える。(7)	<p>只見の水を守ることと自然を守ることが一体であること、その行為が福島県や日本、世界中を守る行動であることを理解し、周囲の人々へ発信・具体的な提案をするとともに、自分自身も日々の生活の中で意識して行動しようとするすることができる。</p> <p>〈情報スキル・プレゼンテーション力・メタ認知力〉</p>

## 2. 学習活動の実際

### 2-1. 単元における位置づけ



単元 27 時間中の 1 時間目

### 2-2. 本時の目標

地球温暖化に由来する諸問題に関心をもち、今後調べていきたい課題をもつことができる。

(思考力, 判断力, 表現力等) <問題を発見する力>

### 2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点 (方法)
<p>1 前時までの学習をじっくり振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・只見の自然は豊かだ。</li> <li>・動物がたくさんいる。</li> <li>・両生類がたくさんいる。</li> <li>・植物の種類がたくさんある。</li> <li>・只見の水はきれいだ。</li> <li>・水中にもいろいろな生き物がいる。</li> <li>・透明度が高い。</li> <li>・ペーハーの値は・・・</li> <li>・パックテストの結果は・・・</li> <li>・只見の川は小さな川も数えるとたくさんある。</li> <li>・ずーっといくと海に流れ込む。</li> </ul> <p style="text-align: center;">など</p> 	<p>○ 短冊にキーワードを書かせ、模造紙に貼らせていくことで、子どもたち自らが分類整理できるようにする。 <b>【見える化】</b></p> <p>○ 「只見の自然は美しく豊かであるが、この先もずっと大丈夫だろうか。」と問い、考えさせる。</p> <p>○ 考えを整理して可視化していく。その際に、「出来事→理由→今後の問題」とつながるようにマッピングしていく。 <b>【ライブレコーディングの活用】</b></p> <p>※ 教師がファシリテーターとして、子供の考えをゆさぶったり根拠の明確化を進めさせたりする。</p>
<p>2 森・川・海で起こっている問題について知っていることを出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴミのポイ捨てがある。</li> <li>・プラゴミの問題。</li> <li>・工事が多いのは大丈夫かな。</li> <li>・川岸を守る工事もあるけど、生き物は大丈夫かな。</li> <li>・木は切りすぎではないだろうか。</li> <li>・大雨が降ることもあり、川が濁ることがあるよ。</li> <li>・環境の問題が気になる。</li> <li>・排出ガスによる空気の汚れ。</li> </ul> 	

<ul style="list-style-type: none"> <li>・昔より夏暑くなつたと聞いたよ。</li> <li>・地球温暖化が進んでいる。</li> </ul> <p style="text-align: center;">など</p> <p>3 地球温暖化について、現時点で知っていることを出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気温が上がるのかな。</li> <li>・氷がとけるんじゃないかな。</li> <li>・水が増える。</li> <li>・排気ガスのせいかな。</li> <li>・異常気象が起きる。</li> </ul>	<p>○ 「只見は海と遠いから、水が増えて海面が上昇しても問題ない?」「気温が上がっても、暑くなるというだけで只見にはそこまで問題はない?」などと問うことで、問題意識を高める。</p> <p>◇ 温暖化に対して関心を持ち、今後調べていきたい課題をもつことができたか。</p> <p style="text-align: center;">(児童の発言、記述) (問題を発見する力)</p>
--	--



### 3. 今回の活動の自己評価

- 十分に水にまつわる調査を行ったことで、子供たちの関心を高めることができた。高い意欲をもって、後半の本単元に入ることができた。
- 環境活動スタート事業で、専門の方のお話をうかがうことができた。ちょうど地球温暖化や環境問題に意識を向けさせたいタイミングだったので、その話をきっかけにして視野を広げることができた。
- 教科横断的に学習を進めたことで、社会科の水道や緑のダムについての知識、理科の水の循環の知識を地域のブナ林にあてはめて考えることができた。

### 4. 今後の課題

- 活動自体が個人活動メインに進むことが多く、協働的な学びの形にするために工夫が必要であった。
- 児童の関心が川をきれいにする(守る)＝ゴミの排除というように、ゴミに偏っていた。地球温暖化という大きな枠については聞いたことがあっても、具体的なイメージはもてていない児童も多かった。補助教材や関連図書を事前に提示したり、自然な形で接することができるように工夫したりすると、様々な視点から意見が出せたのではないか。
- ローカルな川という視点から、地球規模のグローバルな問題へ視点を拡大した後に、再び地域に視点を戻していくための工夫を取り入れたい。

### 5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

- 只見の川の美しさは、他と比較することで浮き彫りになる部分がある。十分な活動として、水質調査を行うだけでなく、川遊びや生き物探し等の活動を併用し、数字上の美しさにとどまらず、実感を伴った認識をもたせることが、その後の「守るべきもの」として考えるきっかけにできる。
- 4年生の段階では、地球温暖化や環境問題の存在を知り、それが只見にも影響があるという関連性に気付くことができればよい。地域への影響は5年生で地域の農業や文化について調べていく中で詳しく調べ、6年生において悪影響を排除するための具体的な方策や行動を提示できるように、学びの系統性・連続性を意識して進めたい。